



温もりのあるまちづくりに向けて

夕張から石炭産業が総撤退して早15年の歳月が流れました。

その石炭に代わる新しい産業基盤を農業と観光に求め、市民意識の高まりの中で「新生夕張」へのまちづくりのスタートを切ってから四半世紀を経ました。

地域再生の道程は、まさにいばらの道でありましたが市民の総力でその基盤を築き、今また新たな一歩を踏み出そうとしているところです。

本市をとりまく社会情勢は、引き続く日本経済の低迷と三位一体改革や国と地方の役割分担、市町村合併問題など依然として厳しいものがありますが、地方自治の本旨は地域住民のための行政推進であり、まず何にも優先してそこに暮らす人々が幸せを実感できることではないでしょうか。

今次、総合計画のテーマは「協働」です。

市民と行政が相互の理解と信頼の下に目的を共有し、積極的に連携、協力して地域社会の公共的な課題に取り組もうとするものです。市民ニーズが多様化している今日、まちづくりもまた特色あるまちづくりが求められています。市民・地域と行政がより一層その距離を縮め、“自分のまちは自分でつくる”の気概を持って、市民と行政が一体となって取り組まなければならないものと考えます。

そして、まちづくりのイメージは“温もり”です。

夕張が持つ多くの財産や特性をまちづくりに活かすと共に豊かな自然と人々の心、ふれあい等、訪れる人誰もがふるさとに似た温もりを感じるような夕張のまちづくりを進めて参ります。

総合計画の策定にあたりましてアンケートにご協力くださいました市民の皆さん、夕張高校の生徒の皆さん、そして貴重なご意見、ご提言をお寄せくださいましたまちづくり委員会の皆さん、市議会などに心から感謝を申し上げますとともに、今後より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成17年8月

夕張市長 後藤 健二